

第8回ごみと水を考える集いからのアピール

本日、名古屋市港区の藤前会館に山、川、里、海で活動する市民団体・行政等37団体92人が参加して、第8回「ごみと水を考える集い」を開催しました。

私たちは、四日市大学環境情報学部の千葉賢教授の「漂着ごみとマイクロプラスチック」との記念講演で、伊勢湾における漂着ごみとマイクロプラスチックの実態と問題点・課題を勉強しました。「2018年度藤前干潟のヨシ原調査の報告」でヨシ原復元に向けた確かな調査結果が出たことを知りました。

台風21号24号による高潮により藤前干潟のヨシ原が長い間捕捉していたペットボトルがあらわになった実態と、ペットボトルリサイクル推進協議会の秋野卓也専務理事からのリサイクルの実態報告の話題提供でペットボトルへの認識を高めました。

その後の四つの交流会では、参加団体の取組発表を聞くと共に「ペットボトル漂着ごみを減らすにどうしたらいいのかわからないのか!」について、話し合い、今後の取組に対する認識を新たにしました。活動報告では、各団体が、山・川・里・海で積極的に各種イベントを開催し、自然環境の大切さを啓発し保全に努力していることが具体的に報告されました。

第1回から第8回までの「集い」を通して、「ごみと水を考える」ネットワークづくりに賛同頂いた団体は64団体になりました。2012年1月に「第1回ゴミと水を考える集い」を契機に結成された「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」は、7年間で8回の奈佐の浜海岸の清掃活動と6回のエクスカージョン活動を重ねています。

奈佐の浜プロジェクトの活動に参加した多くの団体が、自らのフィールドでの取組の大切さと、流域全体の清掃活動の強化と啓発活動が重要なことを再認識しました。

本日の「集いの報告」と交流と話し合いは、すべての流域が水を通して伊勢・三河湾で繋がっていることを再認識し、交流と連携を深めることができました。

ごみを捨てるのは人間だけです。人間だけがごみを造り、ごみを出して自然環境を痛めつけています。人間の責任で「ごみが生まれない社会創り」の実現をめざしましょう。

私たちは、呼びかけます。

- 子どもたちが安心して元気に遊ぶ水辺を取り戻しましょう。
- たくさんの生きものたちが生息する場を取り戻しましょう。
- ごみを見つけたら勇気を出して拾いましょう。
- ごみを捨てない大人と子どもをはぐくみましょう。
- ごみが生まれない社会を創りましょう。
- 山、川、里、海それぞれで活動する人どうしの繋がりをつくりましょう。
- 流域全体で人と自然が共生する環境を創りましょう。

2019年1月26日

第8回藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い参加者一同

<アピールを採択した第8回ごみと水を考える会に参加した市民団体等>

中部大学応用生物学部上野研究室、中部大学ボランティア・NPOセンター、聖カピタニオ女子高等学校、四日市大学千葉賢教授・同研究室、NPO法人香流川をきれいにする会、NPO法人藤前干潟を守る会、NPO法人堀川まちネット、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、一般財団法人みなと総合研究財団、PETボトルリサイクル推進協議会、土岐川・庄内川流域ネットワーク、新川をよみがえらせる会、土岐川・庄内川源の森委員会、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、矢田・庄内川をきれいにする会、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、名古屋市野鳥観察館、伊勢三河湾流域ネットワーク、みなと塾、地球まるごとはっぴい計画、うらそえ里浜ネットワーク実行委員会、尾張西部生態系ネットワークチーム海部野川、四日市ウミガメ保存会、森・川・里の恵み研究所、かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議、IPG(産業廃棄物専門家集団)

<第8回ごみと水を考える会参加の行政・公的機関>

河村たかし名古屋市長、愛知県環境部資源循環推進課、愛知県建設部河川課、三重県環境生活部大気・水環境課、名古屋市環境局、名古屋市緑政土木局河川計画課、環境省中部地方環境事務所、環境省名古屋自然保護官事務所、国土交通省庄内川河川事務所、名古屋港管理組合港営部港営課